

白神英語ガイド 手応え

深 浦

青森市の青森南高校の生徒有志12人が17日、深浦町の十二湖で、英語によるガイドを行った。生徒たちは6月にも十二湖を訪れ、地元ガイドから、今年、世界自然遺産登録30周年を迎える白神山地の自然について教わっていた。その内容を基に、約2カ月かけて同校の外国語指導助手（ALT）や英語教師とともにガイド原稿を作成。この日は同町とつがる市のALTに対してガイドを実践し、評判は上々だった。（三國谷啓）



ALT（左から2人目）に英語でガイドする青森南生17日、深浦町の十二湖

青南高生、ALT相手に実践

生徒たちは3班に分かれ、ALTとともに青池やブナ自然林、沸壺の池を巡りながら、池や動植物に関する知識を英語でガイド。

深浦町出身の山崎詠弓さん（3年）はガイドの出来を「今回は60点」と謙遜しながらも、「楽しんでくれた様子で良かった。これから入学する後輩にも活動をつなげていきたい。季節ごとに訪れ、もっと知識を深めていくことができればと思う」と話していた。

ガイドを受けた深浦町のALTレベツカ・レイノルズさん（24）は「青池には来たことがあったけど、今回はブナ林や沸壺の池も楽しかった。英語も分かりやすくペリグッド」。つがる市のALTミッシェル・マッカーテイーさん（26）は「木のことをよく調べていて、触ったりする体験も面白かった。英語も頑張っていた」と感想を述べた。

ガイドに同行した町総合戦略課の黄金崎芳幸課長は「十二湖に来たことがない県内の高校生も多いと思う。このような機会を通じ、関係人口が広がってくれば」と話した。

青森南高生は、英語で十二湖の魅力を紹介した外国人向けリーフレットを作成した。同町の宿泊施設「アオーネ白神十二湖」のフロントに近く設置される予定。



東奥日報 2023年（令和5年）8月19日（土）掲載
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。